

## 呑川の植物（7~8月）レポート

今年の夏は新型コロナ禍と熱中症が心配され、巣籠りの日々が多くたつと思います。せめて朝の散歩は悠々とマスクなしで歩きたいものです。呑川沿いの野草は季節に合わせて入れ替わっているようです。

今回は身近な夏の花、アサガオの仲間と河床に咲く花、等を取り上げてみました。

アサガオは小学校低学年の観察、実験の教材として採用されることが多い植物です。日本で最も発達した園芸植物の一つとも云われます。奈良時代中国から渡来薬草として用いられ、また江戸時代觀賞用として改良され庶民に楽しまれた。朝顔市が夏の風物詩となっている入谷朝顔市は有名です。朝に咲くと云いますが実は夜明け前から花は開き昼には内側に籠るように閉じる。ヒルガオ科の植物は日本ではアサガオ、ヒルガオ、ルコウソウ、マルバルコウ、サツマイモなど10種類がみられる。サツマイモの花はアサガオそのものですが開花に強く、短日要求する植物のため日本ではめったに咲かない。市区町村の花と指定しているのは台東区、武蔵野市、横浜市旭区が指定され馴染みがある花です。朝顔は夏の花と思い込んでいましたが俳句の中では秋の季語とありました。

花言葉は「明日もさわやか」！！！この時期の以下の俳句も思いだします。

「朝顔の盛りや路地を登校日」（青木たけ乃さん）

「朝顔につるべ取られてもらい水」（加賀千代女さん）

① アメリカアサガオ（亜米利加朝顔）は熱帯アメリカ原産で、日本へは穀物の種子に混じって渡來したと推測されている一年草の外来アサガオです。葉は3裂ものや丸いタイプもあります。茎や葉は下向きの毛が多く触るとざらざらします。茎は蔓性となり、周囲の植物や柵などに絡みつき7m以上も伸びます。7月~10月頃まで漏斗形の花を付けます。青紫色が多く見られますが白や・桃色・赤紫もあるそうです。種にはファルビチンという成分が含まれ下剤としての作用があります。ヒルガオ科、



呑川護岸のアメリカアサガオ  
(8/24 水神橋付近)



花・A



花・B

## ② マルバアメリカアサガオ（丸葉亜米利加朝顔）

比較的ポピュラーに見られる外来アサガオ、葉はアメリカアサガオより小さい丸いタイプ。ヒルガオ科

## ③ ヒルガオ（昼顔）

早朝に咲いて昼前に萎むアサガオに対してヒルガオは日中に咲く。コヒルガオより色が濃く、大きな花をつける。葉は鉢型で細長い、基部が斜め後方に耳形に張り出す。花柄はコヒルガオと違い翼がなくつるつるしている。

ヒルガオに似るコヒルガオはヒルガオと同じく日中に咲く、ヒルガオより小さい、道端でコンパクトなアサガオ形の花をつける。葉は鉢形、基部で横に耳のように張出し、その耳の先が浅く二つに裂けるのが特徴。6月~8月にかけて、葉腋から花径を出して白っぽい桃色の漏斗状の花をつける。花は次から次と咲くが実はまれにしか付かない。ともにヒルガオ科。



8/24 マルバアメリカアサガオ



8/19 ヒルガオ (JR 京浜東北)



8/24 マルバルコウ (水神橋)



8/24 ルコウソウ (久根橋)

## ④ マルバルコウ（丸葉縷紅草）

丸い心形の葉と鮮やかな紅色の花をつける外来雑草。本州中部以南で野生化している。熱帯アメリカ原産で江戸時代に観賞用として導入されたものが逃げ出し各地に広まったといわれている。種子の発芽率が良く旺盛につるを伸ばす。7月から10月にかけて、中心が黄色の鮮やかな紅色の花を沢山開き目立ちます。ヒルガオ科。

## ⑤ ルコウソウ（縷紅草）

赤い星形の花と糸状の葉が特徴です。漢字で縷とは細い糸の事、特徴的な葉の形と鮮やかな紅色の花が咲くことから付いた名前と云われる。多年草、寒さに弱いため園芸的には一年草として扱われる。熱帯アメリカ原産の蔓性で花の時期が長く、昔から観賞用として植えられた。花は上から見ると星形ですが横から見るとラッパのように広がっている。緑のカーテンとしても好まれるがルコウソウ仲間は牧場の関係者には嫌われている。ヒルガオ科。

④ と⑤の交雑種でハゴロモルコウソウがあります。

⑥ ヤナギバルイラソウ（柳葉ルイラ草）

メキシコ原産の常緑多年草、日本には1974年頃沖縄に持ち込まれその後本州に広まった。半耐寒性常緑小低木。葉はヤナギの葉に似て細長く緑色の葉は紫色の葉脈が走る。4月~10月にわたり葉腋から円錐花序をだし径5cm程の薄紫の漏斗状の花をつける。花は午後には萎みますが翌日また別の花が咲いている。花の後莢ができ中には細かい種が多く入っている。葉の長さは15cm、幅0.7cm、草丈40~100cm、種は自然に弾け、繁殖力強い。洪水に遇ってもすぐ立ち上がり、葉にゴミが付着しにくい。数年で下流域（八幡橋～谷中橋）に増殖している。キツネノマゴ科



8/19 ヤナギバルイラソウ（河床）



8/19 本村橋下流（河床）30mほど密植

⑦ キバナコスモス（黄花秋桜）コスモスの仲間にはオオハルシャギク（一般的なコスモス）やキバナコスモス、チョコレートコスモスがあります。オオハルシャギクとは同属別種にあたる。原産地はメキシコで標高1,600m以下に自生する。日本には大正時代に渡来し園芸品種の一つとして栽培されているほか野生化もしている。花は6月~10月にかけ直径3~5cmのオレンジや黄色の花を咲かせる。葉は濃緑色で対生。細かい切れ込み、8個の舌状花、多数の筒状花からなる。最近呑川沿いには多く見られるが靈山橋から堤方橋の間は付近の方が植栽している。



8/25 キバナコスモスの花



8/25 養源寺橋付近

参考図書：雑草や野草がよくわかる本、(株)秀和システム

：色で見分け五感で樂しむ野草図鑑、(株)ナツメ社

：草花さんぽ図鑑、(株)永岡書店、

2020.8.30 HY